

Ginkyo

www.kumamoto-hsu.ac.jp

銀杏学園通信 ぎんぎょう



特集 SPECIAL FEATURE

特集1 本学のPCR検査体制について

特集2 新レストラン運用開始

特集3 「品質保証・精度管理学共同研究講座」開設

特集 本学のPCR検査体制について 2

特集 新レストラン運用開始 4

特集 「品質保証・精度管理学共同研究講座」開設 5

News & Topic 6

実習体験レポート 8

研究ノート、本学のクラブ・サークル活動について 9

OB就職活動ルポ 10

研究室紹介、Library 11

コラム、編集後記 12

クリーンな学修環境の構築を目指して



学長
竹屋 元裕

熊本県で第一例目の新型コロナウイルス感染者が確認されたのは、昨年2月22日でした。やがて一年が経過しようとしていますが、この間、感染拡大が止まらず、収束の兆しも見えていません。このような状況下において、本学では昨年9月末からの後期授業開始に際して、クリーンな学修環境の構築を目指して、全学生・教職員を対象とした独自の新型コロナウイルスPCR検査体制を構築致しました。そのメリットとして、①学外実習に際して、外部施設に安心して学生を受け入れていただける。②対象者全員の陰性確認によって、学内の講義や演習・実習において対面授業の割合を増やすことが可能となる。などが挙げられます。幸い、本学にはPCR検査手技に精通した教員が多く在籍しており、PCR検査装置も現有のものが利用可能であり、短期間で検査体制を確立することが出来ました。昨年末にはコロナ専用の検査室を整備し、PCR検査装置も専用のものを導入致しました。検査体制が整備されたことから、外部検体の一部を受託するなどの社会貢献も開始しています。

少なくとも数年は続くであろうウィズ・コロナ時代において、教育の質を保証するために、本学独自のPCR検査体制が有効に機能するものと考えています。本特集では、半年間の経験を踏まえ、PCR検査体制の有用性と今後の展開について関係者に寄稿していただきました。

本学のPCR検査体制の構築・拡充について



学部長
檜原 真二

本邦では、昨年3～4月に新型コロナウイルス感染が急拡大し、PCR検査体制の構築・拡充が急務となりました。本学医学検査学科には、研究・臨床現場でPCRなどの分子生物学的手法に習熟した教員が配置されており、昨年4～5月に熊本市医師会PCR検査センター臨床検査技師の技術的指導、6月以降は同センターへの助言を行うなどで社会的要請に対応していました。このような状況で、竹屋学長の「新型コロナウイルス感染拡大に対して学生や教職員の不安を解消し、クリーンな学修環境を確立する」コロナ感染対策の下、感染制御専門医でもある学内教員の指導を受けて、学内に新型コロナウイルスのPCR検査を立ち上げることとなりました。幸いなことに医学検査学科研究室には、P2・P3実験室、安全キャビネット、PCR装置などの設備があり、さらにreal time PCR装置も有しており、新型コロナウイルス検査を行える十分な環境でもありました。

山本講師を中心としたPCR検査グループが、唾液などを用いたPCR検査法を確立し、9月から検査を希望する学生、教職員、学内の業務委託先勤務者及び学生の学外実習先変更毎にも検査を行うなど、延べ2000検体以上のPCR検査を行ってきました。

11月20日には熊本市に「衛生検査所」の登録申請を行い、本学でPCR受託検査も可能となりました。今後は熊本市医師会との連携をさらに強化して、熊本市医師会PCR検査センターに依頼のある一部の検体について12月8日から本学で測定を行っています。11月には最新のreal time PCR装置 (Roche社) も導入され、最大240 sample/day の処理が可能となり、感染拡大時の地域社会の新型コロナウイルス検査処理能力向上にも大いに貢献できるものと思われまます。

本学と熊本市医師会検査センター間提携における検査体制

医学検査学科 講師 山本 隆敏

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) のパンデミック宣言以来、世界各国で様々な対策が講じられてきましたが、その収束には程遠い状況が続いています。そこで本学では、熊本市医師会PCR検査センターの立ち上げに協力した実績を活かして、学内に新型コロナウイルスに対するPCR検査体制を確立し、学生・教職員に検査を実施することで、コロナ感染リスクの低減をはかり、安心・安全な教育環境の再構築を目指すこととしました。

検査は国立感染症研究所の示すマニュアルに従い実施し、試薬は国内自治体検査機関に導入実績のあるものを用いて検査を行っています。現在(11月12日現在)、約2,000件の検査を行いました。学生・教職員ともにほぼ100%実施し、学外実習へも無事派遣できています。

榎原学部長の記述にもあるとおり本学でも熊本市に「衛生検査所」の登録申請を行い、本学で外部依頼によるPCR検査も可能となりました。その際に本学で熊本市医師会検査センターから依頼された新型コロナPCR検査用検体を扱う際の流れが以下に示す通りです。

01

熊本市医師会検査センターで
検体の回収

02

熊本市医師会検査センターで
患者・検体情報の登録

03

登録データを本学へ送信と
検体の搬送

04

本学で検体受け取りを行い、
検査室へ搬入

05

新型コロナPCR検査の実施

06

検査結果を報告書に登録し、
熊本市医師会検査センターへ送信



昨年12月に学内に設置したPCR測定室



遺伝子検査室での検体処理



Real-time PCR装置の操作

新レストラン運用を祝して



理事長
嶋元 達郎

顧みますと、船津元理事長、小野元学長のご尽力と地元の皆様のご協力で、2年半前に明るい通学路と新アリーナを竣工いたしました。その後、旧アリーナを2階建てに改造してレストランとすることを着想し、正面エントランスを新しいイメージに刷新する大胆なデザインと機能的なフロア展開を提案された戸田建設さんに設計施工をお願いし、完成しました。見学いただいた本学の理事・評議員の皆様にも、お褒めのお言葉をいただきましたが、私自身も、このような立派なレストランを持つ大学は数少ないと誇りに思っています。レストランの名称は、公募において最多票を得た「レストラン ピリア」に決まりました。本学の4綱領の一つ「仁愛」を意味するギリシャ語です。学生諸君、教職員、できれば地域の皆様にもご利用いただいて、食事の場、くつろぎの場、学習の場として末永く愛され、さらに豊かなキャンパスライフを築くスペースとなることを期待しています。



新レストラン正面にフロントゲートを設置



新レストラン正面には、サザンカとシマトネリコを植樹



内部吹き抜けの1階には470名分の席を用意



1階西側は日当たりもよく、眺めもよい席



2階ホールにはソファ席など約200名分の席を用意



2階の西側開放テラスは人気のスポット

※現在は「密」を避けるため学生同士が隣り合わないよう座席数を減らしています。

講座開設の目的



副学長
杉内 博幸

熊本保健科学大学と化血研は、「品質保証・精度管理学共同研究講座」を令和2年10月1日付けで熊本大に設置しました。また、令和3年4月からは、大学院修士課程に品質保証・精度管理に関する講義科目が追加されます。医薬品メーカーには、GMPに定められた「製造管理及び品質管理の基準」に適合した製品作りが求められています。一方、医療機関の臨床検査室では、国際規格ISO 15189「臨床検査室-品質と能力に関する要求事項」を認定取得し、高質の検査データを臨床側に提供しています。GMP及びISO 15189は、いずれも製品又は検査データの質を保証するための要求事項ですが運用面等においての課題も指摘されています。本講座では特命教授に蛭田修氏（日本製薬団体連合会品質委員会前委員長）、客員教授に松原朱實氏（ISO 15189 上席主任審査員・元熊本大教授）と櫻井信豪氏（東京理科大学薬学部 医薬品等品質・GMP講座教授）をお迎えして、GMPとISO 15189を2つの柱として、アカデミアとしての立場から系統的・総合的な研究を実施すると共に、保健医療分野における品質保証を牽引する人材の育成に取り組んでいきます。

品質保証システムの構築に向けて



特命教授
蛭田 修

「品質保証・精度管理学共同研究講座」は熊本保健科学大学と一般財団法人 化学及血清療法研究所の共同研究講座として昨年10月1日付にて本学に設立されました。

臨床検査における顧客へのアウトプットは「データ」ですが、医薬品におけるアウトプットは「物質」であり、その見た目は大きく違いますが、臨床検査も医薬品も人の命にかかわるものであり、人々の健康を守るという共通の目的があります。また、医薬品は「物質」ではありますが、有効性や安全性のデータがなければその医薬品を安心して使用することはできません。そのデータに信頼性が求められる点では医薬品も臨床検査も全く同じです。

すなわち、医薬品の品質保証は、そのデータの信頼性を保証することに直結し、臨床検査における精度管理とその基本的な考え方や方法論で共通する部分が数多くあります。

本共同研究講座のメンバーは、私に加え、松原朱實客員教授、櫻井信豪客員教授（東京理科大学薬学部教授）の3名で構成されます。本講座では医薬品の品質保証システムと、臨床検査における精度管理のための品質保証システムであるISO 15189の二つをテーマとして取り上げ、これらに関する系統的、総合的な研究を実施してゆく予定です。特にこの二つのシステムを扱うことによるシナジー効果によって、より効率的かつ効果的な品質保証システムの提案に結び付けたいと考えています。



開設記念講演会

熊本保健科学大学と一般財団法人化学及血清療法研究所は、「品質保証・精度管理学共同研究講座」を大学内に令和2年10月1日付で設置しました。共同研究講座を開設したことを記念し、講演会を開催し、共同研究講座の目的や研究内容、今後の展望について教職員に周知しました。

Webオープンキャンパス、Webチャレンジ熊保大を開催

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のためWebによるオープンキャンパスを実施しました。

本学のホームページ上で特設サイトを作成し、大学ガイダンスや入試ガイダンス、学科に関する紹介など動画で紹介しています。また、在学生による施設紹介やQ&Aコーナーもあります。現在も公開中ですので、ぜひご覧ください。

さらに、Webオープンキャンパスの一環として7/26、8/16の2日間、Webによる個別相談会を開催しました。学科・専攻、別科の先生方を中心とした学科別相談の他、奨学金・アパート等の相談、在学生との交流(ピア・サポーター)を、Zoomを使用して実施しました。画面越しではありますが、直接顔を見ながらの相談となり、少しでも大学の雰囲気を感じていただけたのではないかと思います。

また、例年入試対策イベントとして実施している「チャレンジ熊保大！」も今回はWebで実施しました。壺溪塾の先生方にご協力をいただきオンデマンド形式の講座としました。こちらにも多くのお申込みをいただき受講いただいております。

ご協力いただきました皆さまに心より御礼申し上げます。(入試・広報課)



リハ合同就職説明会 (Web開催)

リハビリテーション学科(1-4年生)の学生を対象に合同就職説明会を開催しました。主たる目的は、施設情報を把握するとともに、自分の職業観を再確認し、進路決定の一助とするものです。今回は例年実施の対面形式からWeb形式に変更して実施しました。具体的には学生専用の特別サイトを用意し、その中に参加施設のページを設けております。ページ内には各施設の業務内容や教育体制、採用情報などを掲載しており、学生が各自閲覧して情報を収集する流れとなっております。期間中(9月15日から30日)は63施設(県内26, 県外37)にご参加いただきました。

閲覧した学生からは、「対面で実施できない中での最善の方法だったと思いました」、「気軽に閲覧することができて良かったです」などの意見をいただきました。また、今回情報をご提供いただきました施設の皆さまには心よりお礼申し上げます。限られた条件の中で初めての試みとなりましたので、行き届かない点が多々あったかと存じますが、施設の皆さまのお力添えで多くの情報を学生たちに提供することができました。本当にありがとうございました。(就職・実習支援課)



講座紹介 TOEICプログラム

共通教育センター 森 友子

TOEICとは英語でのコミュニケーション能力を測定するテストのひとつで、世界最大のテスト専門機関ETS(米国)が開発・制作しています。英語は世界共通語であり、英語を使いこなせる力『英語力』は様々な場面で必要とされています。

熊保大ではTOEIC L&R(リスニング&リーディング)スコアによる単位取得を認めています。また“キャリアアップにつながる英語力をTOEICと一緒に身につけよう!”をモットーに、開学以来ずっとTOEICプログラムに取り組んできました。具体的には、学内で受験できるTOEIC L&R IPテスト(受験料の一部を補助)の実施と、学部生・院生・教職員の希望者を対象としたTOEIC L&R対策課外クラスの開講です。

2020年度はTOEICプログラムもコロナ禍により困難に直面しましたが、学内PCR検査体制が整い、11月ようやく第1回TOEIC L&R IPテストを実施できました!

“Diligence is the mother of good luck.” Benjamin Franklin

講座紹介 言語発達臨床教育研究室

リハ学科言語聴覚学専攻・講師 岩村 健司

言語聴覚士は、コミュニケーションに問題を抱えているお子さんに対し、言語聴覚障害の症状を細かく観察、分析し、評価を実施することで、適切に支援を行います。

本学では、2011年から言語聴覚士の養成がはじまりましたが、学生へのより実践的な教育の充実と地域における言語聴覚療法の提供を目的として、2018年に「言語発達臨床教育研究室(通称「ことばの相談室」)」が新たに開設されました。

ことばの相談室を訪れるお子さんへの臨床活動や発達障害当事者親の会主催の研修に学生自身が参加することで、実際に障害を持たれた子どもたちと触れ合うことができ、様々な経験を重ねることができています。令和2年度は、コロナ禍の影響で活動を一部休止せざるを得ない状況ではありますが、オンラインを用いた支援の在り方を検討するなど、再開に向けて準備を進めています。今後ともよろしくお願いたします。

崎元理事長 叙勲(瑞宝重光章)受章

令和2年秋の叙勲が11月3日に発表され、崎元達郎理事長が瑞宝重光章を受章されました。

崎元理事長は、大阪大学工学部構築工学科、工学研究科構築工学専攻の出身で橋梁構造工学の第一人者でもあり、熊本大学等において、38年間にわたり構造力学、鋼構造に関する教育研究に従事しました。学術だけでなく実橋の設計法の普及にも顕著な業績を挙げており、土木学会賞(田中賞論文部門)、土木学会功績賞を受けています。また、日米韓の教科書、技術書を単著共著で刊行し、国内外の学生や技術者の育成に貢献しました。熊本大学の管理運営面では、評議員や工学部長などを務め第11代学長として、次いで、国立大学法人化時の初代学長として、優れたリーダーシップを発揮し、多くの改革を実施し、熊本大学の業績と存在感の向上に貢献しました。熊本大学退職後は、放送大学熊本学習センター所長として生涯学習の充実・発展に貢献し、その後、学校法人銀杏学園 熊本保健科学大学の学長・理事長として、教育改革、キャンパス拡張事業等を実施し、高度医療人の養成と私学の発展にも貢献しました。(企画・人事課)



記念品謹呈式にて

動物慰霊祭

コロナ禍の中ではありましたが、10月21日水曜日、令和2年度動物慰霊祭を執り行いました。

まず犠牲になった動物たちの御霊に感謝の意を込めて参列者全員で黙とうを行いました。竹屋学長、学生代表の医学検査学科3年久多見健太さんが、動物たちへの慰霊の詞を述べ、崎元理事長、竹屋学長、動物実験委員長長の田中(聡)教授、学生代表の医学検査学科3年本田奨さん4名が献花を行い、祭式は終了いたしました。



祭式終了後、参列者も献花を行い、動物たちの冥福を心よりお祈りいたしました。(総務課)

FDセミナー

FD委員長・教授 檜原 真二

8月26日に本年度第1回FDセミナーを開催し、日本高等教育評価機構事務局長の伊藤敏弘氏に「認証評価制度のねらいと概要—第3期認証評価を中心に—」のタイトルで、Zoomにてご講演を頂きました。

伊藤氏の講演で、認証評価制度は事後チェックの重要性、国際競争力・国際通用性確保、教育制度改革などの社会的要請から導入されています。大学は、学部・学科等と大学全体の「PDCAサイクルの仕組みの確立と質保証の仕組みが機能しているか」が問われています。また、第三期認証評価から重点評価項目として「基準6 内部質保証」が設けられており、内部質保証は、「自らの責任で自己点検・評価を行い、その結果をもとに自己改善し、大学運営全般の質を保証する」などについて説明がなされました。

11月に本学の認証評価の実地調査が行われ、講演された事柄が有効に活かされたものと考えています。

医学検査学科 臨地実習認定証授与式

医学検査学科・講師 永田 和美

10月30日に医学検査学科3年生が参加して臨地実習認定式が行われました。今年度はコロナ禍の中での臨地実習認定式のため、臨地実習適格認定証は学長から学生代表の本田奨さんに「おめでとう」の言葉とともに授与されました。学長告示では「感染症対策を十分に実施し、いろんな技術やいろんな人とのコミュニケーションを学んでほしい」との話があり、その後、学生代表の久多見健太さんによる「ヒポクラテスの誓い」の宣誓、医学検査学科長訓示では「今まで学んできた知識や技術が現場でどのように生かされているのか体感してほしい」との話があり、厳かな雰囲気の中滞りなく終了しました。今年度の臨地実習は11月2日から1月15日までの47日間の日程で実施されます。



熊本豪雨災害被災地への学生ボランティア派遣

令和2年度の豪雨災害後、新型コロナの影響でボランティアを県内居住者に限定していたこともあり、本学学生に対しても現地への派遣要請がありました。本学の危機対策本部に指示を仰ぎ、減災科目で協力関係にある熊本大学とも連携しながら、ボランティアに希望を申し出た185名の学生に対し、ボランティア活動保険への加入や事前指導を行いました。その後週末を中心に各自が継続的に現地へのボランティア活動に参加しています。



24日にはボランティアバスを仕立て、7名の学生が人吉で活動を行いました。依頼主の方からお話を伺いつつ猛暑の中ボランティア活動を行う中、近隣の方々からの温かいお声かけや差し入れもいただくなど、学生たちにとっては貴重な経験になったようでした。まだ現地は復旧の途上ですが、早期の復興を心よりお祈り申し上げます。(地域包括連携医療教育研究センター)

医学検査学科

医学検査学科3年
後藤 有里

臨地実習では生理・検体検査についての知識を教わり、日常業務を見学させて頂きました。検体検査室では検体の取り違えがないようさまざまな工夫がなされており、ダブルチェックを行う場面を何度も目にしました。特に輸血検査では日赤や看護師との血液製剤の受け渡しで毎回番号などの確認をしており、患者様の検体を取り扱っていることを肌で感じることができました。

検査結果では一つの結果から異常な場所、症状の考察や他の検査ではどのような結果と推測できるかなど、繋げて理解することの重要性を勉強させて頂きました。学内では各科目ごとに勉強し他科目との関連をあまり考えずに講義や実習をして、苦手な科目はあまり手をつけられませんでした。しかしどの科目も関連づけて勉強しなければならぬと強く思いました。

臨床検査技師の方々に対する尊敬や憧れ、また国家試験や就職に対する勉強意欲も高まりました。

看護学科



看護学科4年
原 蘭 和 圭

大学生活最後の看護総合実習は、新型コロナウイルスの影響により、ZoomやYoutube等を活用した遠隔での実施でした。

実習が始まる前は、どのような実習になるのか想像もできませんでした。しかし、実習施設の看護部長・看護師長による講義に加え、県外の大学病院の専門看護師・認定看護師のお話も聞くことができ、臨地実習と同様に看護管理について深く学ぶことができました。また、Zoomでのグループワークもたくさんあり、先生からの助言や3年次の領域実習の経験から、座学と実践を結び付けながら話し合うことができました。そのため、遠隔であっても発言が多く、活発なグループワークで学びを深めることができました。

さまざまな制約がかかる中での実習でしたが、遠隔だったからこそ学べることもあり、私にとって貴重な経験となりました。

最後に、遠隔でも十分に学べるよう計画して下さった先生方や講義をして下さった看護師の皆様へ深く感謝申し上げます。

リハビリテーション学科 理学療法学専攻

リハビリテーション学科
理学療法学専攻4年
坂本 桜香

臨床実習では、急性期のリハビリテーションについて学ぶことができました。今回は初めて急性期の患者さんを担当させていただいたことで、急性期と回復期の違いが良く分かりました。急性期は、2週間の限られた期間で迅速な評価やアプローチを行っていく必要がありどのように効率よく進めていくかを考えることが大変でした。また、脳画像の読解など自分が苦手としていた分野にも触れる機会が多くあり少し苦手意識をなくすことができました。

新型コロナウイルスの影響で実習が途中で中止になり、治療プログラムを患者さんに介入するところまで行うことができませんでしたが、指導者が最後までアドバイスなどをしてくださり、学べたことがたくさんあったため短い期間ではありましたが、実習を行うことができてよかったです。新型コロナウイルス感染症の警戒レベルが高いなかで、今回の実習の機会を与えていただき本当に感謝しております。

リハビリテーション学科 生活機能療法学専攻



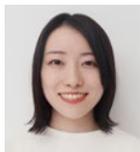
リハビリテーション学科
生活機能療法学専攻4年
縞田 千咲

実習では、身体障害・精神障害・老年期の分野に行き、座学では学ぶことのできない貴重な体験をさせていただきました。その中での一番の学びは、多方向から患者様を視ることです。大学では、患者様の望んでいる作業や活動が行えるように、環境面を工夫し、心身ともに支援していくことが作業療法士の役割の1つであると学んできました。私は患者様の機能面ばかりを視ることが多かったのですが、どう工夫すればよいかを考えることに苦戦しました。先生方の熱心な指導の下、多職種からの情報収集によって多方向から患者様を視ることができ、患者様と一緒に記憶に残る作業を行うことができたと感じています。

最後に患者様から、「楽しかった。ありがとう。」というお言葉を頂けたことは、今後作業療法士として働いていく上で大きな力になると思います。実習で経験したことを生かし、これからも勉強に励んでいきたいと思っています。



リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻

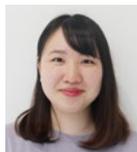


リハビリテーション学科
言語聴覚学専攻4年
中村 友紀

臨床実習では、様々な回復期の患者様や医療スタッフの方と関わらせていただきました。その中で学んだことは、訓練場面だけでなく、退院後の生活を見据えたリハビリを行うことの大切さです。私は、1人の患者様の入院から退院までを担当させていただきました。初めに行っていた機能面を重視した訓練では、退院後患者様自身で続けるのは難しく、「日常生活で無理なく継続して行える訓練をした方がいい」と助言をいただきました。その後、患者様の日常的に使用しているスマートフォンを活用した訓練を考えて提案しました。すると患者様に喜んで取り組んでいただくことができました。

実習を通して、患者様に合った訓練を考えることの難しさを感じました。今後はもっと知識を増やし、多くの医療スタッフの方の考え方に触れたり様々な患者様を経験したりすることで患者様に合った訓練を考えられるようになりたいと思いました。

助産別科



助産別科
渡邊 由菜

助産学実習では、多くの母子や家族と関わらせていただきました。10例のお産についてはどれも忘れることができないものとなりました。「一番辛い時に一緒にいてくれたから乗り越えられた」などの感謝のお言葉をいただいたり、辛く長い陣痛を乗り越え、新生児と対面された時のお母さんの笑顔を見ることができ、助産師という仕事の素晴らしさを感じることができました。今回の実習で学んだことを活かし、国家試験の勉強に取り組み、妊産婦さんお一人おひとりに寄り添うことのできる助産師になりたいと思います。

最後になりましたが、コロナ禍の中実習を受け入れてくださった医療スタッフの皆様、熱心に指導してくださった先生、実習中励ましてくれた友人たち、受け持たせていただいた全ての皆様に感謝致します。ありがとうございました。

研究ノート

保管血小板を使用した肝疾患における新規治療法確立を目指した基礎研究



保健科学研究科
保健科学専攻
臨床検査領域2年
登尾 一平

輸血用血小板製剤は、出血傾向または出血のリスクのある患者様に使用される血液製剤です。わが国では、血小板製剤の有効期限は4日間と短く、期限切れとなった製剤が廃棄されることが問題となっています。そのため血小板製剤の有効期限の延長について様々な研究がなされていますが、有効な方法は見出されていません。

一方、血小板の主な役割は止血ですが、止血機能以外にも組織修復やガンの転移など様々な機能があることが知られています。そこで私は、血小板の持つ組織再生作用に着目し、期限の過ぎた血小板製剤が肝再生に影響を与えるか否かについて研究を行っています。その結果、有効期限の過ぎた血小板製剤では血小板膜表面の糖蛋白が変化していることを見出し、現在は様々な肝疾患に使用できる新規治療法の開発を目指して、血小板が持つ肝細胞増殖への影響について日々研究に取り組んでいます。

with...

本学のクラブ・サークル活動について

学生委員長・教授
南部 雅美

2019年12月31日、中国政府当局より世界保健機関(WHO)に対して原因不明の肺炎の発生が報告されました。その3か月後の2020年3月11日に、WHOは、新型コロナウイルスがパンデミック(世界的大流行)に相当すると発表しました。事態は尋常ではなく、本学においても感染状況を鑑みて大学内での講義が延期される中、クラブ・サークル活動についても当面の間は活動をやむなく禁止することにいたしました。大学教育において、正課の授業はもちろん、クラブ・サークル活動などの正課外活動は、先輩や後輩との関わり合いを通し、「熊保大クラブ活動振興宣言」に掲げる人間力の育成において極めて重要です。後期からの活動再開への期待とは裏腹に、コロナの猛威は衰えることなく、8月初旬の熊本県・市における新型コロナのリスクレベル4への引き上げを受け、活動再開を見送るという苦渋の選択を強いられ、現在に至っています。しかし現在は、コロナ渦の中でwith coronaとして、Webによる新入生の勧誘を行うなど脈々と後輩たちにクラブ・サークル活動を繋ぐ活動が行われています。コロナに屈することのない逞しい熊保大スピリットを育てて頂きたいと切望いたします。

KHSU B 就職への道 就職活動ルポ



2020年3月卒業 (医学検査学科)
福岡星夜さん

臨床検査技師
熊本赤十字病院

就職活動対策と国家試験に向けて学生勉強会を開催し、みんなで知識を高め、教えることで学んだ知識を定着させることができ、みんなからも好評だったので後輩の皆さんにも是非取り組んで頂きたいです。

面接では必ずと言っていいほど自己PRについて聞かれるため、自分の強みを早めに見つけることが大事だと思います。私の強みは向上心があることなので、職場の先輩方に一日でも早く追いつき、追い越すことが現在の目標です。そのために私も努力を怠らず、日々成長し続けたいと思います。



2020年3月卒業 (看護学科)
北川愛さん

保健師
佐賀県職員

私は現在、佐賀県庁の保健師として働いています。主に難病を担当していますが、コロナ禍においては帰国者・接触者相談センターでの相談対応等様々な業務を行っています。

就職活動で力を入れたことは、公務員試験対策と面接です。公務員試験対策では、参考書を繰り返し解き、面接では、就職・実習支援課や看護学科の先生方に面接の練習をしていただき自信を持って就職試験に臨みました。

就職に向けて不安なこともあると思いますが、ご家族や友人、先生方に相談しながら就職活動に取り組んでいただけたらと思います。頑張ってください！



2020年3月卒業
(リハ学科 理学療法学専攻)
志田佳浦里さん

理学療法士
北九州市立医療センター

私は就職活動を行うにあたり、将来地域の医療に貢献したいという思いがありました。そのため、北九州市の医療の中核を担う病院で働くことと決心しました。当機構は就職試験が7月にあり、長期実習と重なり忙しかったのですが、目的があったため努力できました。本番は素直な気持ちで臨むと予期せぬ質問でも自分の本心からの文字や言葉が出てくると思います。就職活動は、将来の自分を考える1つの機会だと思います。悔いの残らぬよう真剣に取り組んで、素敵な社会人生活が送れるよう頑張ってください。応援しています。



2020年3月卒業
(リハ学科 生活機能療法学専攻)
内田悠太さん

作業療法士
済生会熊本病院

- 在学中就職を意識してやっていたこと
- 実習中や外部講師の方の話から自分がその病院、施設に就職した場合のイメージやそこでやりたい事を考えること。
- 今の時代の新卒生(医療職以外)には何が求められているのかの考察。

○就職活動中のことや、後輩へのアドバイス
やりたい事の明確化と信念の確立が大事だと思います。例えば「お金持ちになりたい」「モテたい」「対象者の心と体の一番の理解者になりたい」など、これから40年働く時に支えに有り得る信念の確立をしました。

別に美談でも良いと思います。その信念が就職活動の原動力のような気がしますし、就職・実習支援課の人はそれをサポートして下さいました。

2020年3月卒業
(リハ学科 言語聴覚学専攻卒業生)

2020年3月卒業 (助産別科)
田川真梨子さん

助産師
慈恵病院

私は、急性期の病院で、発症直後の脳血管障害や神経・筋疾患、がんなどの様々な疾患の方のリハビリを行っています。

私が就職活動で一番力を入れたことは面接対策です。面接に対し苦手意識が強く、何度も就職・実習支援課の方と練習をし、直すべき点を指摘していただきました。練習を重ねることで自信が付き、笑顔で堂々と話すことができるようになりました。

国試対策との両立は大変だと思いますが、就職・実習支援課の方や専攻の先生は皆さんの味方です。頑張ってください！

私は慈恵病院の助産師として、主にお産の介助に携わっています。

母子の命を預かる責任の重い仕事ですが、命の誕生の喜びを感じ日々多くのことを学んでいます。

就活で特に力を入れたのは面接練習です。過去の試験情報をもとに自分なりの答えをある程度考えメモにし、どんな質問にも答えられるようにしました。就職・実習支援課の方や別科の先生、友達と何度も練習することで、本番では自信を持って望むことができました。

助産別科は忙しいですが、周りの人達の力を借り、後悔のないように頑張ってください。応援しています。

研究室紹介

熊保大で展開する 神経疾患へのトランスレーショナル研究

リハビリテーション学科 理学療法学専攻・教授 土井 篤

私の研究紹介をしたいと思います。現在、私は「神経疾患モデル動物を用いた治療方法とそのメカニズムの解明」をミッションとして、難病の一つである線維筋痛症、鬱病、高次脳機能障害としての半側空間無視、坐骨神経痛などのモデル動物を用いて運動療法、振動刺激や電気刺激等の物理療法、薬剤との併用療法の効果検証を行っています。最近では行動評価に加え、生体を用いた運動神経、感覚神経の評価や脳波記録、また各種モデルにおける神経細胞の応答を記録できるようになりました。さらに、蛋白質や分子レベルの評価解析を本学の教員にも協力を仰ぎ、所謂“神経研究チーム”としても活動しております。そこで、その神経研究チームについても少し話をさせていただければと思っております。この神経研究チームの主要メンバーは、申 敏哲教授、岩下佳弘准教授、高濱和夫客員教授、そして私で構成されています。申教授は主として生後の発達障害や老年期の認知症モデル動物に対する舌への物理的的刺激、各種食品や薬剤の効果、岩下准教授はご自身の腎臓研究で培った蛋白レベルの評価を脳で行うことを、高濱客員教授は既存のカリウムチャンネル関連薬による各種神経疾患への治療、特にドーパミン系との関わりを研究しており、教員同士で話し合いを重ねながら、神経研究を進めております。勿論、私を含むこの神経研究チームは船出してから短くこれからであり、そのような私や神経研究チームの研究に少しでも興味を持って頂ける方々が居られれば学内外問わず、いつでもどなたでも歓迎しております。また教育に携わっている本学教員の方々と、臨床的立場から我々に何かアイデアを頂ければ大変有り難いとも考えております。このような私と神経研究チームですが、どうぞ宜しくお願いいたします。

新任教職員紹介 ようこそ、熊本保健科学大学へ

品質保証・精度管理学
共同研究講座



特命教授
蛭田 修

昨年10月1日付で新設された「品質保証・精度管理学共同研究講座」に着任いたしました。それまでは医薬品メーカーで医薬品の製造に関する研究や品質保証の仕事をしてきました。企業での経験を教育や研究に生かして、即戦力となる『生きる』をひらく、かけがえない一人の育成に携わっていきたくと思います。

事務局



事務局長付
古川 愛美

昨年10月より事務職員として勤務しております。以前は建設会社で施工管理をしていたので、建設現場と大学で全く職場環境も業務内容も異なりますが、これまでの経験を生かして、また、新たに大学勤務や事務について学ばせていただきながら本学のために尽力して参りますので、宜しくお願い致します。

Library

図書館ホームページ <https://www.kumamoto-hsu.ac.jp/library.html>

○遠隔授業や自宅での学修支援

遠隔授業や自宅での学修支援として、映像資料『EVO』と『VISULEARN』を導入しました(6月)。動画による病院実習の学びや解剖生理など、自己学習としても活用できます。図書館ホームページ<http://www.kumamoto-hsu.ac.jp/library.html>から利用できます。(学内者のみ)

○第8回選書ツアー(7/18)

第8回選書ツアー(7/18)、熊本市内の書店で開催しました。参加者は、学部生4名と館長と教職員4名、選書数235冊。「様々な本を選んで楽し

かった。参加してよかった。」と学生からの感想。選書者のコメント付きで、展示中です。次回選書ツアーは、スマホからでも参加可能なオンライン選書会を実施(12月~1月)しました。

○学部生(4年次)の研究支援

学部生(4年次)の研究支援として、学術論文の学外複写依頼料1000円分補助とオンラインでの申込みサービスを開始しました。10月末時点で、昨年度の2倍以上の利用があります。その他、図書館の各種サービスについては、図書館までお問い合わせください。

図書館蔵書の中から

図書のご紹介(本学教員著書)



『日本におけるメチル水銀中毒事件研究2020』

水俣病研究会編(向井良人ほか)
2020 弦書房
配架場所:展示コーナー



『発症から看取までを支える脳卒中のトータルケア』

飯山有紀編(橋本宜子、飯山準一、太田光紀ほか)
2020 メヂカルフレンド社
配架場所:展示コーナー

